

2020年7月1日～2021年6月30日 第2期 事業報告書

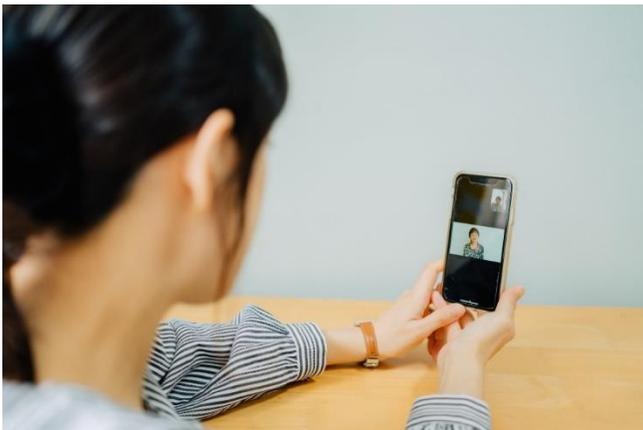
団体名	一般社団法人ヘルスサポーターズイノベーション
団体のミッション	すべての人に最適なヘルスサポートを、迅速かつ継続的に提供できる環境をつくる
事業概要	オンラインで両親学級を代行するほか、産後の相談、仲間づくりができる環境を複数の団体に提供する
本事業に取り組む背景・思い	出産の高齢化に伴い、産後に心身の負担を抱える人が増えています。さらに祖父母の高齢化、転勤族の増加、核家族化、母国を離れて出産する外国人など、周りに支援者がいない人が多く存在します。また、近年、全国の産婦人科・産科のある一般病院は減り続け大病院に集約化される傾向にあります。身近に頼れる産前産後ケア専門家がいないことも、母親が感じる産みにくさや育てにくさの一因となっていると考えられます。さらにコロナ禍で孤立に追い打ちをかけられている妊産婦、乳幼児を育てるご家族のみなさまの支えになりたいとの思いから本プロジェクトに取り組みました。
<p><u>上手くいったこと</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン相談を開始した ・複数の団体のオンライン化を支援できた ・スタッフのスキルが向上した ・両親学級を開始できた ・2021年7月1日から佐賀県の業務委託を受けオンライン相談を開始 ・独自の相談予約システムの開発が2021年5月末に完了した ・他団体（大学、企業、職能団体）とのネットワークが広がっている ・独自の妊娠・育児支援WEBアプリの基盤部分が5月末に開発完了した 	
<p><u>上手くいかなかったこと</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン相談の件数が伸びない ・両親学級のコンテンツ制作に予想以上に時間がかかってしまった ・次年度から当団体のサービスを導入する団体は佐賀県以外は獲得が難しい（サービスの構築と広報が遅れたため自治体の予算要求時期に間に合わなかった） 	

1. 実際の活動内容について

活動① 助産師など専門職による「妊娠・子育て無料オンライン相談」の実施

現在、全国から30名以上の専門職がアドバイザーとなりオンライン相談を行っています。また、1対1の相談は敷居が高いと感じる方も多いため、佐賀県唐津市子育て情報支援センターの協力を得て、グループオンライン相談会も実施しました。

<https://www.healthsupporters-i.com/20201210-2/>



心・体の悩み教授ら助言

無料オンライン 職種様々、専門家26人



手を動かしながら体の悩み相談に応じる佐藤教授

佐賀市水ヶ江の一般社団法人「ヘルスサポーターズイノベーション」(h.s.i、寺野幸子代表理事)が、無料で、心や体に関するオンライン相談に応じている。4月30日に、出産や育児に詳しい佐賀大の佐藤珠美教授が応じたケースでは、半年前に男児を出産した市内の女性(30)が相談。産後1か月ほどから両手が痛むようになり、「ボタンのかけはずしがスムーズにできず」が原因と診断された。寺野代表理事は育児を例に「悩んでいる人のなかには赤ちゃんの泣き声を恐怖に感じるお母さんもいる」と話す。新型コロナウイルス禍による社会の閉塞感が悩みを助長していることも考えられるため、気軽に相談するよう呼びかけている。

h.s.iは「すべての人に最適なヘルスサポート」の理念を掲げて相談に応じている。相談時間は20分で、専門家の知識を生かした健康支援を目指している。4月30日に、出産や育児に詳しい佐賀大の佐藤珠美教授が応じたケースでは、半年前に男児を出産した市内の女性(30)が相談。産後1か月ほどから両手が痛むようになり、「ボタンのかけはずしがスムーズにできず」が原因と診断された。寺野代表理事は育児を例に「悩んでいる人のなかには赤ちゃんの泣き声を恐怖に感じるお母さんもいる」と話す。新型コロナウイルス禍による社会の閉塞感が悩みを助長していることも考えられるため、気軽に相談するよう呼びかけている。

申し込みが必要。問い合わせは、団体のホームページか電話(0952・60・2152)へ。

活動② オンライン両親学級の実施

全国の行政、企業、産婦人科の両親学級をオンラインで代行できる体制づくり、コンテンツづくりに取り組みました。コンテンツが完成し両親学級を開始しました。対象となる団体に向けパンフレットも郵送しましたが個別の行政等から受託することは難しく、両親学級は自主開催のみとなりました。

開催回数 12回 参加組数 73組

活動③ オンラインセミナー、交流会の環境構築

1) “さが多胎ネット”からの依頼で、オンデマンドで視聴できる動画の制作を行いました。

多胎の妊婦とその家族を対象とした妊娠期の過ごし方や、産後の子育て支援情報を分かりやすくお伝えできるよう工夫しました。

また、zoomを活用したオンラインの交流会の開催をサポートしました。

当団体については今後、ホームページの構築を行っていきます。

詳細はこちら

<https://ameblo.jp/greenpeas2004/entry-12616478012.html?frm=theme>

2) “佐賀県助産師会”からの依頼で zoom を活用して理事会の開催をサポートしました。Zoom を初めて使う方には事前にレクチャーを行うなど、オンラインに不慣れな方の不安を軽減できるよう努めました。また、11月には当団体が実施する研修会を zoom を活用してサポートを行いました。

3) “佐賀大学医学部”からの依頼で、コロナ禍で現地実習ができない看護学生を対象にオンラインで実習ができるようサポートしました。具体的には佐賀県で産前産後ケアに取り組む NPO 法人 poco a bocca の活動を紹介する1時間程度の動画を制作し、助産師がそれを用いて zoom (ウェビナー) でオンライン実習を行うというもので、オンライン化に必要な作業を担当しました。

4) “佐賀大学附属病院”からの依頼で、公式ホームページに掲載する両親学級の動画制作の依頼を受けました。当病院はハイリクス妊婦がお産をすることが多く、半数が帝王切開、その他にも持病があるなどお産に不安を抱える方が多く受診するため、両親学級の動画がいつでも繰り返し視聴できるようになることはサービスの向上に大きく寄与します。

こちらのページの「母親学級(動画)」の6つを制作しています。

<https://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/hp/medicalcare/obstetrics/index.html>

5) いのちを大切にす会佐賀の講演会をオンラインで配信しました。仕事の都合で参加できない方や、会場までの距離が遠く参加が難しい方、約50名がオンラインで視聴されました。

<https://www.healthsupporters-i.com/inochi20201115/>

6) 佐賀県助産師会の会員向け研修会のオンライン化をサポートしました。講師が会場に来ることが難しかったので、参加者は会場に集まり、講師は会場ではない場所から zoom にて講演を行いました。質疑応答も活発に行われ参加者及び主催者からは高い評価を得ることが出来ました。この団体に対しては2月にも研修会のオンライン化のサポートを実施しました。

<https://www.healthsupporters-i.com/20201106-2/>

7) 不登校児の支援を行うフリースクール“ただいま”のウェブサイト構築のサポートを行っています。どのような情報を発信すれば対象となる子どもたちとその保護者に当スクールの情報を届け、関心を持ってもらうことが出来るのか、サイトのコンセプト作りからサポートを行いました。

<https://tadaimasaga.com/>

活動④ 行政の制度で活用できる助産師相談、訪問予約システムの開発

テクノロジーを活用した総合的な産前産後ケアを実現するためのプラットフォーム（名称：CHILWEL）開発に取り組みました。これにより、サービス対象者とのつながりが点から面へと広がり、適切なサービスを適切なタイミングでこちらからプッシュできる環境を実現することが出来るようになります。5月末には計画通り基盤部分の開発が完了し、別途開発を進めていた行政の制度で活用できる助産師相談のシステム（6月1日から稼働済み）との連携も完了し6月25日から稼働しています。

<http://www.chilwel.jp/>

2. 直面する課題への対応と現状

オンライン相談は当方以外にも多くの団体に取り組んでいますが、共通の課題として相談件数が伸びないと聞いています。そこでママ達との接点が多い子育て支援関係者にご意見をいただく場を設けたところ、サービスを提供している人達の人となりや伝わるような情報発信が鍵であると助言をいただきました。

それを受けて、ブログ、Facebook、Instagram、twitter を開設し各々の特徴を活かした情報発信を開始しています。どのような発信の仕方がユーザー増につながるのか実行と検証を重ねていきたいと思っています。

内部のスタッフだけでなく、外部の様々な専門家の方々と意見交換する機会を多く設けることで、今後の事業発展のパートナーとなる団体を増やしています。大きなチームを組み、それぞれが力を発揮することで単体では実現が難しいダイナミックなプロジェクトに挑戦する基盤ができています。

具体例として、2021年5月から佐賀大学医学部看護学科母性看護・助産学領域、一般社団法人ヘルスサポーターズイノベーション、西九州大学リハビリテーション学科理学療法専攻、リスク計測テクノロジーズ株式会社は共同で【音声マインド分析技術 Motivel による母親と父親の産後うつ病のスクリーニングの有用性】という研究に取り組んでいます。

<https://www.healthsupporters-i.com/motivel2021/>

【連携する団体の例】

佐賀県／佐賀県助産師会／佐賀大学／西九州大学（理学療法分野）

（株）RImTech（マインドヘルス分野）／コネヒト（株）（佐賀県との協働）／株式会社 ANDCO（プラットフォーム開発）／佐賀県 CSO 推進機構（広報・資金調達）／日本生命佐賀支社（事業支援）

3. メディア掲載等

プレスリリースを行っています

① <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000004.000066145.html>

② <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000003.000066145.html>

③ <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000002.000066145.html>

子育てサイト mamari にて紹介されました

https://mamari.jp/30137?fbclid=IwAR19iSWRQ5wnzzd7peFGou1KMYmHRc8YuvO0B_Wminhu8E2y5W59lrRabEU

毎日新聞に掲載されました

毎日新聞

新型コロナウイルス 妊産婦や子育て家庭支えたい 助産師・理学療法士らと個別に対話 無料オンライン相談開始 /佐賀

会員限定有料記事 毎日新聞 2020年10月7日 地方版

出産・子育て > 佐賀県 > ライフスタイル > ライフ >

佐賀市の支援団体

妊産婦や乳幼児を育てる家庭を支援する一般社団法人「ヘルスサポーターズイノベーション」（佐賀市）は、全国の母親らを対象に無料のオンライン相談を始めた。ウェブ会議システム「Zoom（ズーム）」を使い、2021年3月まで何回でも受けられる。新型コロナウイルスの影響で多くの自治体の両親学級が中止・延期される中、代表理事の寺野幸子さん（43）は「誰に頼ればいいのか分からない母親、父親に気軽に利用してほしい」と呼び掛けている。【竹林静】

相談は東京都や佐賀、福岡両県の助産師や理学療法士などの講師と個別に話すことができる。各20分で、同法人ホームページの「オンライン相談」欄から講師が指定する時間枠を選んで予約する。父親の子育てを支援するNPO法人の男性講師も在籍し、寺野さんは「父親の『ちょっと聞きたい』との思いにも応えたい」と話す。

毎日新聞 検索 宅配申込 天気 動画 創刊 刊行物 マイニュース

トップ 社会 政治 経済 国際 サイエンス スポーツ オピニオン カルチャー ライフ 教育 地域 English

総合 ライフスタイル 食 ファッション GetNavi 就職・転職 住宅 旅行 読者投稿

好評、オンライン両親学級 来年3月まで無料開催 「育児の不安解消に活用して」 / 佐賀

会員限定有料記事 毎日新聞 2020年12月24日 地方版

出産・子育て > 佐賀県 > ライフスタイル > ライフ >



新型コロナウイルスの感染拡大を受けて自治体や病院による「両親学級」が中止・延期となる中、一般社団法人「ヘルスサポートーズイノベーション」（佐賀市）がオンラインで開く「旅する両親学級」が好評だ。インターネット環境があれば場所を選ばず受講でき、少人数制のため助産師への質問も気軽に行える。2021年3月まで無料で開催する。

「パパにも産後うつがあると聞いたことはありますか」。法人の代表理事・寺野幸子さん（43）が受講者に呼び掛けた。ウェブ会議システム「Zoom（ズーム）」を使い、今月12日は初産の妊婦やその夫ら約10人が参加した。

AA
Twitter
Timeline
f
B!

サガテレビの夕方のニュースで紹介されました

<https://www.healthsupporters-i.com/20210107/>